

二八1
1516
3



蘭國通覽卷之下

般石水先生口授

門人 福和山醫官有馬元晁文仲筆記

○食料

曰ていよく和蘭人食料といふかゝるものや世々^{りく}と
食^まるものや唐人^{てい}の^まいひ又^{また}燻^{くわん}を多^{おほ}く

蘭國通覽

刀

類も性固く人好まざりなるものと常食とを
 むも調理のきつこいげととよく熟煮して用ふ事
 て必しと生煮のつひを鮮肉此指味なほととき腸
 胃に入て消化しとときとめは食どとれ和菜人
 なごを獸魚ととて異形のものとみくびりしるる食
 ひはあゆめとのを甲斐のものといひて食ふ事と欲せ
 どとなり鯨鯨章魚鳥賊などいふ振りもれを食ふ
 ど魚と棘鬚魚比目魚鱒鯉の類ありとりも椎子

危など云やう此脂はよく有毒のもの多くを用ひ
 となり犬馬の類を飼ふに食料とせぬ事なり勿論
 飲食に常度ありて必しとこえそ豪酒飽食ハ
 さぬことふ於ては此人の平生鮮肉を食ひ市井
 無頼の徒といふやうに松魚二尾とほくせりといひ
 或は汁一杯の酒を一頓とて暮すなどいふを
 彼人等をも且嘆とせりやぬこと多く嘆く
 といふ大頭の大さな長管を用ふていふなる

だー全件片きりをを^{ヤシ}器^のー^し長管^ふー^し
 ちりを久^くー^し脂^{ヤシ}と^ちめぬ工夫^{くわ}を^しや^り
 碎^くち^りを^とり^て取^りー^しなり^かと^て天^{てん}得^{とく}よ^りふ^いふ^ふ
 煙^{けん}氣^きの^ん吐^{たん}を^た蕉^{せう}ぢ^りの^まー^と病^{びやう}き^をや^りふ^と考^{こう}へ^き
 ち^ぢぶ^ー大^{だい}頭^づの^ひな^れど^と管^{くだ}を^とり^て色^{いろ}ぢ^りの^穴を^とて^細く
 且^{かつ}その^もぢ^りと^しつ^つの^まと^とゆ^びび^びと^て烈^{れつ}毒^{どく}を^と去^ぞり
 乾^{かん}し^まり^のよ^うー^し石^{いし}破^や人^{にん}の^煙茶^{ちや}を^脹ぢ^りの^ち
 煙^{けん}を^吞と^のも^とふ^か吹^ふか^はな^りの^事を^一外^{がい}に^とて^造り^しく

ゆくゆくー^し二三吸^すえ^てや^じなり^此か^れ人^のの^こじ
 く短^{たん}管^{くだん}う^ーて^は行^ゆ住^ぢ外^{がい}用^{よう}の^かぢ^ぢな^まー^しこ^じー^しな
 め^めど^とな^りの^此辨^{べん}論^{ろん}予^よの^葛録^{ろく}の^中に^詳し^しと

○黒坊

問^い私^し茶^{ちや}に^て一^つの^方を^とり^て黒^{くろ}坊^{ぼう}と^いふ^のを^とり^て
 水^{みづ}錬^{れん}し^て長^{なが}い^のと^いひ^又を^猿の^類
 ち^ぢう^とし^ふま^りー^し物^{もの}や^もて^て曰^{いは}崑^{こん}崙^{ろん}奴^にと
 して^の名^な天^{てん}竺^{ぢく}地^ち方^{ほう}の^各民^{みん}なり^和蘭^{らん}人^{にん}と^いふ^がう^と

して石仕ひりりへあつて彼地方所の人
 て皆南極出地の國ゆゑ甚く酷熱此國くなり
 其後心身身體日一照けあつて色いりて黒
 且卑賤此ものも裸體をその陰處をけり
 かりとれりなりといふ者拳毛みそのなりといふ
 釋迦なご天竺めり則意蘭といふ海峯大熱
 地の産まじり頭丸螺髪なりと炎熱してあま
 してちり其餘五百羅漢て或を祖を或を裸の

人あり土地のけさしあかきなり此黒坊といふ
 ものも貴賤賢愚けりなり其後を近傍同國
 同種の人にて人間ていふるをなすといふ
 水鍊て長ざりといふとて人外のものなり
 といふをわらざりて和蘭人銘々各自僕てい
 取合次第て用をもちていふて食事を給仕諸
 使に類ありて縫製の洗濯水汲米搗厨の侍人
 といふ差別をなす和蘭人ていふとよんといふ

「ナワリ」ともを思ひませ「りんご」といふを少者せうしやのこ
とワリひとのといふ奴隷こゝろのちゆうげん僕従ちゆうげんはさなるべし一私中しちちゆう私
働らぶらするを「ゆきりう」水夫「水夫すいぶ」の事とてく、の茶院人ちやえんじんなりし

○みんぢんや

ゆきりう曰いひ庖厨いぱうちゆうなり「りんげん」やといふがし、いふ
ことしや、まじし、とてく、水夫「水夫すいぶ」の事とてく、水夫「水夫すいぶ」の事
は「と」といふは誤あやまちもするや全件「りんぢん」やと
いふ「りんぢん」もき、といふことこれやゆきりうなりし

神かみの言ことをと催もよほ命いのち倉くら所ところといふやうなる事あり私蘭
七州しちしゅうは七王しちおう互あひひりお催もよほ命いのちを諸国しよこく交易かうぎの望ぞらをい
とてく、の法はふ役やく人にんと拵せうへ海うみの貨物かぶつものを仕つかへ東
の法はふに南みなみ舶はくとて東あづまに去いるなりし、の毛け筆ひつ筆ひつの
うら「むいびり」といふ所ところに生なまを場ばとてゆへ、まじ
られを「おが」もといふいんぢいせとむもきい「まゑ」も法はふ
催もよほ命いのちといふ事なるや、ゆきりうもその法はふの
N といふ記き論ろんをほく、これに「ゆきりう」もいふ事あり

とといんぢせとんこひどぐぎん」といふ四言此字教
 して二十六字のりやみ頭字ぐるをとりてよをぬ
 不和蘭文字なり別和蘭催合坐といふことなりと
 ぞ此ありて官物に書用なると書なると同どいふ
 べし西方諸國のてゆここれ所わりといふ

○ ともききてふ

あといとくともききてるとして人の體より火をとるた具
 わりといふいさるるこのまや 昔曰此圖をらで

一 森崑氏のわくわくをさの紅毛雜話に詳なり本
 「ともききてていと」といふ語の轉ぢりなり和蘭國
 語をてを「ひひるる」といふらくと「ともき人の體よ
 り火を取るといふ」といふるをわくどふるといふゆゑ
 てと火出ふなりとて後ハ金石のそれわひて火と生
 ずり此理ふして燧金火打石とせむなりゆゑ火石性
 カれ名わりをなす天地の氣相摩して電光の
 のわくはこれ理と示しをら道具なりとぞとの

一にわらうとのより火おわすまをわすどたをよ
 里火のわてゆき一所よを火後すなうかくれた理
 わるゝとあてゝつて怪しきとあをわらうす理を辨
 まて火の族をわらう一巧に出さる器なりををさ
 理を朝夕毎家一用ゝ火打石とおなりごとありと
 知るべし

○景画燈籠

一にけくをしり景画燈籠といふもの
和蘭の

一のなるをて暗室中一小燈をおり然しは燈の
 一しやゆふと掛をる白地乃ちあとのしりあく
 漆色の繪をけりけり人あなとば帯け人の長はどよ
 てはあゝあゝとたなうらとあとのしやいふかすは
 うけなるものしや
 一をいゝと和蘭の
 一の終を「しりゆらんあむの」といふ釋をまじりて妖燈
 といふことなりとや元兒女子は玩弄の器なりあ
 一とあける小箱の先をすしとの内へ火を點し

その透洞へ硝子一画きり繪を逆ゆるき一入き
とて影轉倒して向ふあり地へ順一うけり
且形大しなふかす、これを眼といふもの萬物未映
して内へ景と道理と同じくしてそのもので
見てその理を辨ざら速し解するなべし理
味さ人々も仰解し、これのゆゑ妖燈の名
わたりや

○殺活車

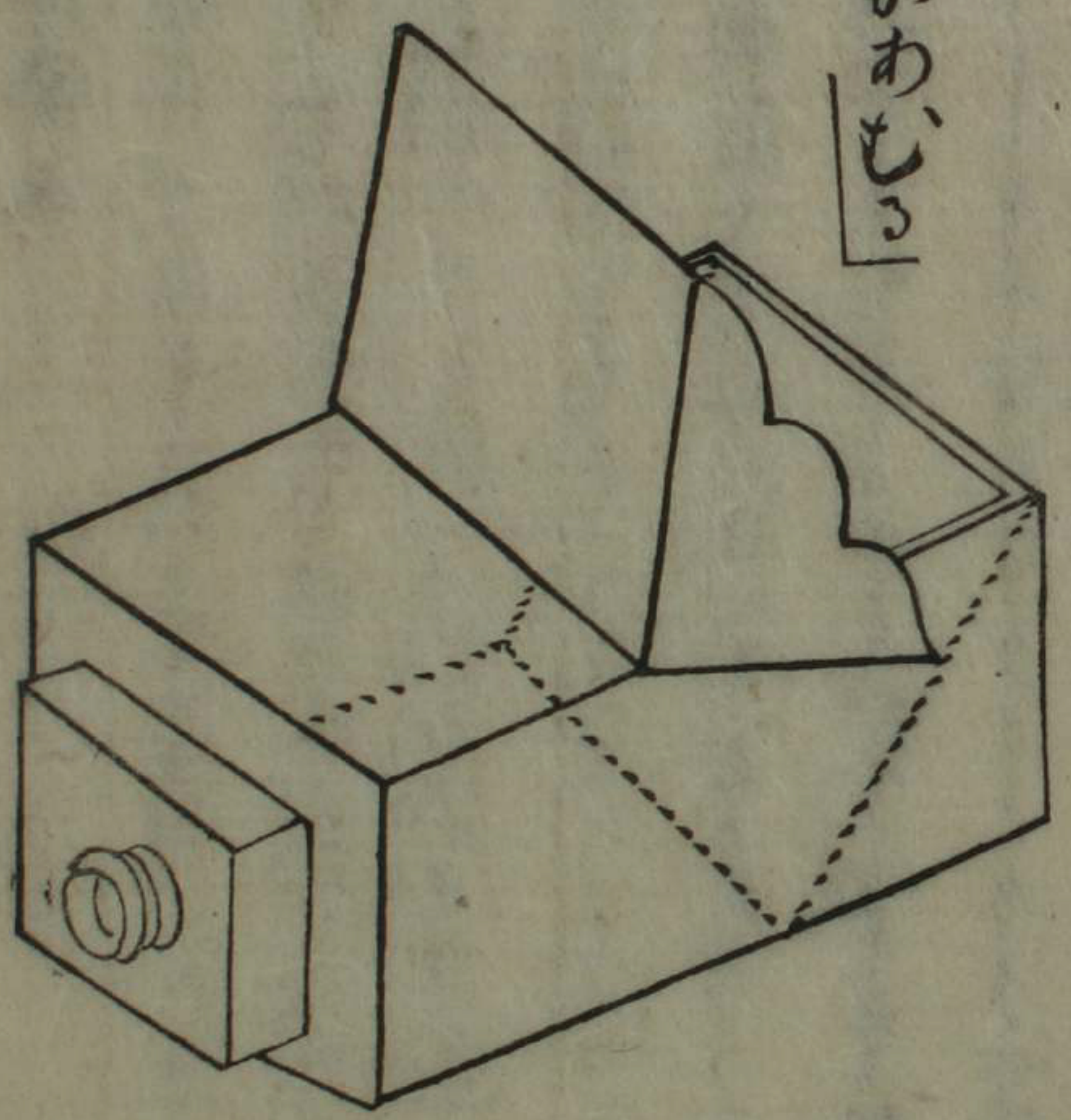
回して、これを死活硝子。殺活車とて硝子に内へ氣
融いそ系けいの生物を入き死活をなす。心器しんきを見よう
と我々いふなるものや

答曰こ我々「脚くとがむ」といふ器なるを
こ我々、これの生物な天地に大氣中又立てその
空氣を呼吸して死活をなす其理を示さる器
といふ彼國理学家乃製するものぶして其きり窮理の
書し一因説わりとや

○寫真鏡

阿〜い〜。若れ〜ら〜。硝子乃鏡を仕つけ。山水人物を
 うつ〜。画者^{うら}苦此^{うら}ま〜して写真鏡とよぶ。そのあり。
 元^え鑿製^{さくせい}のり〜。仿^{たう}と^とり^りの〜や。
 若して曰^い。これ^これ^こを^を「^{うら}ん^ん〜^ん」^{うら}といふ^い苦^くなり^{なり}。此^この^のあり^{あり}
 家^かと^と往々^{わうわう}擬^ぎ製^{せい}と^とり^りと^とあり^{あり}。甚^{しん}ど^ど工夫^{くふう}〜。苦
 なり^{なり}。其^{その}り^り写真鏡^{しやうしんきやう}の^の各^{かく}所^{しよ}を^をの^のり^りと^とい^いふ^ふ〜。
 黄履^{わうりよ}莊^{じやう}。臨^{りん}畫^わ鏡^{きやう}を^を此^この^のなり^{なり}〜。

ごんあらかあじ



一、おきりりとなりりそ及竟永年中一回国を誘
の添^そりたりことなりゆとかいゆに二百年も
及ゆことか^{かん}又盲^{まう}昧^{まい}なる婦^め女子^しは誘^まを度^たの地^ち
振^まりおぼし又と此^こあり人^にと彼^か人と^と轉^まり居^ゐりま^まの
やうにおもふ者^{もの}となり大^{おほ}なるらちひなり清^{せい}人^{にん}お
らんお人^{ひと}とと^とり^り者^{もの}く^く辰^{ちん}館^{かん}なり和^わ基^き人^{にん}族^{しやく}寓^{いう}ハ
同^{どう}所^{じよ}江^{かう}戸^こ所^{じよ}とい^い居^ゐるま^まの沙^さ岸^{がん}に^に築^{たく}か^か一^いきり小
寄^よりり名^なは^はち^ち多^たか^かお寄^よりとい^いふその地^ちの小^{せう}又^{また}向^{むか}ひ^ひ延^{えん}詞^じお

法^{ほふ}役^{やく}人^{にん}お入^いれ^れ門^{もん}の^のり^りと^とお地^ちの^の西^{せい}川^{せん}氏^しを^を誘^まお^お依^いる^るとい^いふ
書^{しよ}り^りと^と誘^まを^を詳^{じやう}よ^よき^きと^とぬ^ぬ清^{せい}人^{にん}の^の館^{かん}を^を十^{じゆ}里^りち^ち村^{むら}と^と云^い
所^{じよ}を^を添^その^の東^{とう}の^のか^かし^し町^{ちやう}と^とも^もと^と梅^{ばい}の^の橋^{はし}とい^いふ^ふ所^{じよ}なり^り此
一^い唐^{たう}船^{せん}を^を岸^{がん}と^とせ^せれ^れい^いふ^ふと^とあり^り大^{だい}徳^{とく}寺^じとい^いふ
寺^じの^のり^りの^の下^か谷^こ居^ゐれ^れ地^ちの^のり^り右^{みぎ}の^のり^りと^とい^いふ^ふ所^{じよ}なり^り
て^て小^{せう}宮^{みや}とい^いふ^ふ村^{むら}なり^りは^は村^{むら}と^と寺^じとの^の間^まあり^りお^お寄^より^り
を^を地^ち面^{めん}よ^よか^かど^どか^かり^りく^く見^みゆる^るなり^り余^あ性^{じやう}東^{とう}本^{ほん}持^ぢ守^{しゆ}也^や
一^い所^{じよ}彼^か地^ちと^と同^{どう}板^{ばん}一^いひ^ひき^きく^く所^{じよ}れ^れを^を誘^ま誘^ま思^しを

求む所あり唐人和蘭人兩館此處あり大畧を志
ししきりし所の土地あり此れはて家と稱とあし
しきりしをこれ海島の中なり

○江戸糸向乃由糸及交易

申しいけし和蘭人奉しくまじき江戸へ来りしを
なすや倭人し高唐人とのまじきをなすといふ
うしきまなりなりし中糸いなりなりなり
まじきいしきしを川流さし波流をゆるし

冥加をせりし許免りて毎表方物を携へく
拜謁し糸向なりしを糸向なりしきりし例あり
て正月十五日七時後寄鎮乃諸役人和蘭人三
名并し大小通詞等數十人を引率し三月れ初
拜謁し登城し方物数件と献しきりし例あり
糸向領とのの中し依りしきりしその拜領の由
を七通ありしゆりしり本國七王へ送るしきりし
領りしきりしとまじきりし交易しきりし

初秋入津の後七八九月三ヶ月乃至誘かきつらうそ
 種く此代物迄仕舞しとぞ今來りたる秋入津は
 の去年以來出寄滞る此ものと交代し新びん生
 まるぬ湯の書記役醫を携へ凡や三人を來向とこ
 いぬ

○ 糸向此びん書記役外科

向くいこく年々江戸へあつびんといつたは官職のな
 なるれ又あつし何ぞの業あることとていふ



言曰「びん」といふを改役といふ事なるや
 彼方の雅言して「ひていん」といふ和蘭國語にてハ
 「おはゆるはふゆ」といふより後を頭と長と
 といふはさ詞のまゝして凡て頭役れものを何ふくの
 かひていんといふことなるをさし夥長は事をも「あ
 ひていん」といふなり此「おはゆるはふゆ」を船中交易
 物の事をいふとて思司といふことなりとて書記役と
 いふものを彼國に詞より「あ」にていふこととて私中

よりお尋ねのハ大考をなす事一なれどもとて
 せんし強ひ江戸へ来たも中此頭取うて彼詞を
 「志こつてい」と抄りたりやぞ醫者も多く内外
 科を兼ねたりなりその中 外科より内科を兼ね
 たりあるが多きなりといふ事と和蘭を外科
 の術より長しをりよりを以て諸民此為より醫
 官よりその療術茶方等問難對話をめり
 とて召呼をまると笑へりり召呼する前江戶より

膏藥油茶等主治を通詞をりて毎度彼外科
 ありを後いし事とをいりたりなり本仁大夫といふ
 譯家の祖父に大夫といふなどその大なる詞をりて
 解書を草稿を余を
 甚なる時見きり事一りり此も後いし事なりて
 毎去る人毎湯り系白紙節 要は彼外科をりて
 りく事なりけいありときりり今より三四十
 年一とおゆども通詞と口げりり彼國語をいひ者

痘瘡麻疹は預外法にうけいしむるを感きしは
 らをうけりしをみとせざるはましきし渡海舟
 中とて同じくことなり外症なりわつて内症を
 のりゆいしやぬ中へて内治外治と分りて
 を来りしむるその醫者なりしと内外科を兼
 るるなりは彼書を考ふに内科は治療方法
 とかけし精密細の事なりしと國名哲は撰べし
 所は書影しきわつ凡そ醫とせざるそのを先づ

才一一人身平素は耐の一體を知るを好むは
 と立きりしものなり四肢百體外は皮肉毛髪より
 内は臟腑脈絡筋膜ふきりしゆで兼くそのを解
 割ししを知る窮めしむるし病因而論し法
 を施ししむるなり其術を研究しむるは其
 きまらざるに趣きしむるなり醫術は中
 内科をとりしり容易し修めざるごとく
 けづきし業のありし全倚内科を醫家の中

こと位階よれとのよし呼び「たぬいとたふ」
 といふ尊踰れ詩なり一名「どくさふ」
 といふこといふこと
 くれごとれとの名あり「私みちなりりあつてみど
 へよ他國きぬこといふし外科とてこと良工とて
 てを同じ「才」なるを船「り」なりりあつて多くハ
 技術一ありそん「きり」のよし修業はそり出世と
 公認る外科内法を業来るよし折く「を内科
 本業乃人として學術研精乃しめ波歴さんとそり
かきまうけんせい
ちうつせい
たけり

ありとありとありと外科を彼國の詞を「たふ」
 めいそふ「ゆ」こと「ん」どと「けり」を「た」を稱と
 流と船中とそり内科兼役とあり「どく
 とふ」と稱するなり船一艘「り」兩人「けり」なり
 こと一人を「おつ」ぬる「めい」とり「い」び「まき」人と「お
 んでる」めい「と」り「と」いふ「を」通稱れ家上「外科」
 「下外科」といふ「おつ」ぬる「ま」よなり「おんでる」を「下
 なる」江戸へ糸向るを「た」の「おつ」ぬる「めい」とり「よ

て別よみ科なりきり地をとも有りいふごとく
ゆゑな「どくとふ」と稱するがた

○和蘭及咬咄吧大畧并世界略

ア〜い〜マ〜ン〜と〜い〜中〜い〜づ〜と〜あ〜南〜
わ〜う〜唐〜山〜う〜わ〜い〜ど〜は〜か〜れ〜る〜國〜と〜や

ま〜て〜い〜け〜く〜全〜件〜の〜世〜界〜と〜い〜ふ〜の〜を〜四〜つ〜ふ〜か〜ち〜れ
と四大洲といふを西〜り〜わ〜る〜一〜大〜洲〜を〜歐〜羅〜巴〜と〜い〜ふ

マ〜ン〜お〜ま〜「あ〜ら〜つ〜げ」ふ属する國うて地名を

「林いでるらんぞ」といふ中ゆゑマ〜ン〜お〜ま〜「統
する必郡七州ありま一つをこれたるをマ〜
ン〜お〜ま〜の〜名〜を〜「わ〜が〜」と〜い〜ふ〜と〜い〜ふ〜と〜い〜ふ〜
了七州を悉稱してマ〜ン〜お〜ま〜と〜い〜ふ〜の〜一〜條〜ハ
我國〜大和國わうて地名をやゆを共いへるごとく
小極地は十二三度ありてき季候極めくを
日本より南に八百里ほどあり教八九ヶ月
を跨ぐなりきり港口の地〜「わびて

うぶむ」といふ地あり 諸國乃高船わしゆり往来
 して 繁華地也此所より日本并諸國
 へ交易の船を装て出て 蘇帆 大の洋を宗也
 凡そ四月より五月にかけて 亞弗利加といふ一大洲の
 極南の地「喝」ハカといふ漆 船をよめ風波れやると
 を考へそれより東洋へ 趣き追風するも大抵
 三月をぞめて 咬啣吧 至るも此咬啣吧を應帝
 亞細亜といふ一大洲 南海の中よりて赤道以南
 属する地所謂天竺あり

六度余り一居る 酷熱の地なり 舊名瓜哇。あつひを訶陵。又
 わり茶人ともや 中一「バ」バといふ所あり 坤
 ぬれ領地とも 居館を「バ」バとす
 牙の職を盡て 後を 總督などいふに 官名を
 此地の惣司なりとや 及び 官人の法役人ふ此命
 令をうりて 交易貨物乃無引 高松性其れを扱をせ
 ぶよりなり 東より 此法に 各皆此地より 住立お
 ことなり 荷商より 東の諸國へ 通商する所凡二十餘

今國なりとぞ其地を別し同書しそふかその
 のりの中廣東へ去年しく十三波はきとあり
 且此地へ去来而往の船艘しつと唐山
 へ去多く濠洲人由あり来るとなりて去来
 船へ申し私船は此地へ往航し物貨舟をな
 本國舟しんぶへ送るよりあり年々日本へ往る
 とありし本國より来りてありて此地を去
 乃未後私し由風去て六月日あり七月けりあり

上長崎へ美岸をいれ海程子二百里とありんといふ
 て着岸の後七八九と三箇月交易す漆し其例あり
 サ日長崎の漆を出帆し一里ほど行きて船を泊り
 此を想入船を用向し海程十月と向由をふみ
 本船へ去りて去るに風を帆をあげてむしびの
 たり本國舟よりわが舟は此大畧海程は此舟あり
 かくしなりし詳なる事々を徳世界の海に
 その書より考べし海程は舟とを舟人の手書し

右略地圖中一二志を其所の
 玉^{くにの}號ハ、俗同海稱ニ志^しを
 正^た號^と等^が詳^しありことハ精^し圖^にに
 て考^へく一^は國^ハ日本^支支^那天竺^等
 志^やがたら「おらん」等の方位を
 志^免さんきめおし甲^申申^り古
 五^五國^ハ朱^朱点^を加^ふ余^余ハ略^略を

蘭國通覽卷

二



